

外壁タイル剥離剥落防止工法の開発

その1 繊維植え込み工法

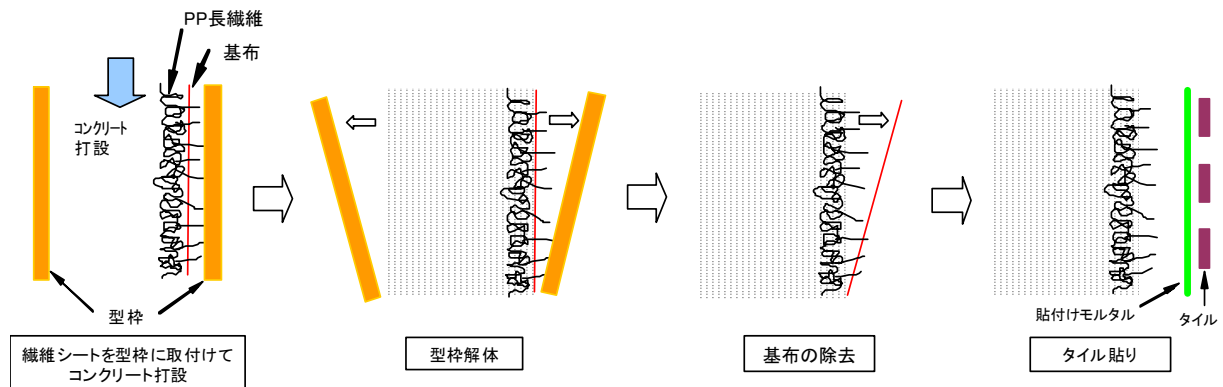
立松和彦

Development for Preventing Tiles Coming Loose and Falling
Part1. Planting Fiber Method

Kazuhiko Tatematsu

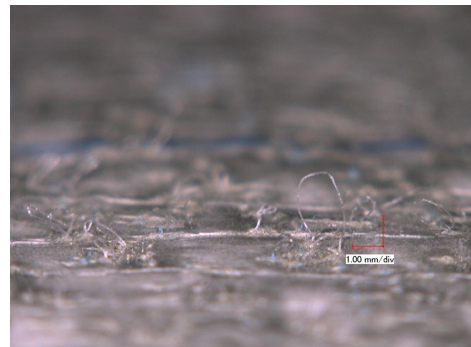
■研究の背景・目的

建築物の外装仕上げ材として、陶磁器質タイルが多く用いられている。しかし、その剥離・剥落事故への不安は依然として大きい。対策工法として新規に開発中の外壁タイルの剥離・剥落防止工法「繊維植え込み工法」の概要および試験結果についてまとめた。



■概 要

工法の特長は上図のように PP 長繊維と基布で構成された繊維植え込みシートを型枠に張り付けてコンクリートを打設し、所定の養生期間経過後に型枠を脱型し、繊維植え込みシートの基布を除去することで、コンクリート表面に繊維が植え込まれることである。右写真は同工法によるコンクリート表面である。実大壁による施工性の確認および各種耐久性試験を行い、良好な結果が得られた。接着強度では、右下図のようにコンクリートの側圧が十分にかかる部位（シート有、中部・下部）では繊維シートによる適度な脱水効果によって表層部が改善され接着強度が向上することがわかった。



■結 論

実大壁での試験結果などから本工法の効果が確認できた。今後は、施工性の検証、耐久性などの試験を進めるとともに、事業化のための準備を順次進めていく予定である。

